

コース案内

運河と鉄道の道を巡りながら、近代産業の発展に思いをはせる。

江戸時代に北前船の寄港地として栄えた兵庫津。船の難所であったため明治初期に兵庫運河建設計画が始まり、明治8年に新川運河、明治32年に兵庫運河が開通しました。この散策マップでは、明治中期以降、貨物の輸送に利用された兵庫運河と鉄道、このエリアで発展し神戸の発展に寄与した近代産業の軌跡をたどります。

A 兵庫貨物駅跡地モニュメント

明治中期から昭和に活躍した貨物ターミナル

JR兵庫駅南側、東西にマンションが建ち並ぶキャナルタウンの敷地は、明治21(1888)年から昭和59(1984)年まで貨物ターミナルとしての役割を果たした「兵庫貨物駅」として使用されていました。駅前広場にあるモニュメントは、兵庫貨物駅煉瓦倉庫の鉄柱を用いています。鉄柱は英国より輸入されたもので、神戸市立博物館にも保存されています。



B 明親館 (めいしんかん)

明治維新期の神戸で最初につくられた学校

慶応3(1867)年、地元の豪商・神田兵右衛門や北風正造らによって開校された神戸で最も古い学校です。初代兵庫県知事であった伊藤博文によって「明親館」と名付けられました。明治5(1872)年の新学制公布により翌年閉校となりましたが、明親小学校にその名が継承されました。校内には有栖川宮熾仁親王書「明親館」の扁額が残っています。



C 車両展示

鉄道ファンにはたまらない貴重車両の展示

兵庫運河とともに発展した兵庫区南部には大手企業の工場が多くあります。運河沿いにある川崎車両株式会社の本館横には、平成20(2008)年0系新幹線のラストランとなった「ひかり347号」や、昭和33(1958)年に初めて東京と関西との日帰りを可能にしたビジネス特急「こだま」の上り1番列車の先頭車両が展示され、敷地の外から見学することができます。



D 八尾善四郎銅像 (長田区)

兵庫運河を最後まで完成させた偉人

兵庫運河株式会社を創立。新川運河までで中断していた建設工事を引き継ぎ、須磨方面と兵庫港を結ぶ「兵庫運河」を明治31(1898)年に完成させました。日露戦争で兵庫運河が軍事物資の輸送などに果たした役割を評価されたため、没後の大正8(1919)年に立てられた銅像は、第二次大戦時の金属供出をまぬがれ、現在も運河を見渡すように立っています。



E 和田旋回橋 (わだせんかいきょう)

いまは動かない現存最古の可動橋

兵庫駅と和田岬駅を結ぶJR和田岬線は中間あたりで兵庫運河を渡ります。鉄道橋「和田旋回橋」は、明治32(1899)年に建設され、船が通過するたびに橋を90度回転させていました。その後、船の航行が減少したため昭和3(1928)年に回転機構がすべて撤去され固定されてしまいましたが、現存している日本最古の可動橋です。



F 和田岬線 鐘紡前駅跡

いまも確認できる廃駅ホームの痕跡

和田岬線唯一の中間駅として、鐘ヶ淵紡績兵庫工場の従業員で賑わっていましたが、神戸大空襲により打撃を受け工場は閉鎖。それに伴い鐘紡前駅も休止、昭和37(1962)年、正式に廃止されました。ホーム部分は地震を乗り越えましたが、電化工事の際に撤去されました。しかしその痕跡はいまも残っています。



G 神戸兵右衛門顕彰碑 (こうだひょうえもんけんしょうひ) / 和田神社内

神戸発展の父の功績を称えた顕彰碑

兵庫の豪商で、兵庫市兵隊の編成、明親館の建設、新川運河の造成、初代神戸市会議長として水道布設、神戸商業会議所(現神戸商工会議所)の設立など数々の実績を残し「神戸発展の父」とも呼ばれました。顕彰碑はその功績を後世に伝えるため、兵庫南浜7町が協力して明治44(1911)年に建てられました。



H 大輪田橋 (おおわだばし)

戦災と震災を乗り越えた近代土木遺産

大正13(1924)年に建造された石貼り鉄筋コンクリート造の3連アーチ橋で、土木学会による近代土木遺産に選定されています。戦災により今でも焼け焦げた跡が残っており、震災により親柱4本中3本が崩落しました。その記憶を風化させないようにと、残った1本の親柱を「戦災と震災のモニュメント」として保存しています。



I 兵庫津ミュージアム

歴史ある兵庫津と兵庫県の魅力を発信

初代県庁舎を復元した「初代県庁館」、博物館「ひょうごはじまり館」の2館からなるミュージアムです。初代県庁館では、当時の歴史空間を体感できるだけでなく、MR体験なども楽しめます。ひょうごはじまり館は、千年を超える歴史を誇る兵庫津の歴史や、兵庫県の成り立ち、兵庫五国の魅力を伝える博物館です。



コラム

兵庫運河と近代産業の発展

和田岬回航は風波が強く、海難事故が相次いだことから、和田岬を迂回する兵庫運河の開削が計画され、明治32(1899)年に完成しました。運河を通過する船舶は増大していきましたが、やがて船舶の大型化で運河の利用は減少していきました。その一方で、港湾荷役の近代化と積の活用により、兵庫運河は近代産業の基盤となっていきました。

明治27(1894)年には鐘ヶ淵紡績(鐘紡)の工場が進出し、自動織機を導入して規模の拡大が進められました。これを契機に神戸市内各地では小泉製麻、日本毛織など繊維関連の会社が創設されました。

ほかにも様々な近代産業の進展が相次ぎます。パンや洋菓子の消費により、小麦の需要が高い製粉業は、船舶によって原料が大量に輸入され、搬入が便利な兵庫運河周辺に日清製粉などの工場が建設されました。製糖業では、台湾製糖(のちの三井製糖長田工場)が誕生し2019年まで稼働。北海道の魚油や輸入原料を活用した食用油、洗剤などの生産も始まり、現在もミソ油脂が製造を続けています。これらの産業のうち数社は、原料輸送が大型船舶になり専用揚陸設備が必要になったため、現在では東灘区沿岸部に移転しています。

川崎重工は鉄道車両の製造をスタート。現在も新幹線や輸出車両の製造をおこなっています。大正時代には自動車や飛行機の製造を始めましたが、昭和初期に航空機工場は岐阜に移転。造船部門はかつて船舶の推進・操舵の主要部品を製造していました。また同時期に、航空機と繊維機械の川西機械製作所が創業。昭和初期には、戦場の過酷な条件に耐えられる無線機や真空管などを製造しました。戦後は、神戸工業の名でいち早く電子部品の研究開発にあたり、現在はデンソーテンとしてカーナビやオーディオなどを生産しています。

そのほか、特殊な技術で casting 事業をおこなう虹枝や、船舶部品を製造する兵庫機械のほか、現存する機械関連企業のいくつかがこの地で誕生しました。輸入ゴムを活用した機械用ベルトを製造し近代産業に大きく貢献した企業も、製品の改良から新製品の開発に尽力しています。この地域で栄えたマッチ工業も一時期は主要な輸出品でした。

兵庫駅を基点にした鉄道群

明治初期から中頃にかけて、神戸の二大工業地帯のひとつとなった兵庫駅南地区には動線が張り巡らされ、沿線にある工場で生産された物の運搬に寄与しました。言うまでもなく一つは兵庫運河であり、もう一つは兵庫区西柳原町に本社を置き、福沢諭吉の甥中上川彦次郎や地元の村野山人らが創立した私鉄山陽鉄道(のちの国鉄山陽本線)です。鉄道は貨物が主流でしたが沿線の工場に勤める人々も運び、兵庫駅から南に大きく分けて三方面に鉄路が敷かれていました。

■和田岬線

ひとつ目は今の三菱重工神戸造船所の工場内の和田棧橋駅まで向かった和田岬線です。兵庫駅から南下して1.0km地点で東に兵庫臨港線へと分岐。和田岬線はそのまま南下し、鐘ヶ淵紡績(鐘紡)神戸工場のある鐘紡前駅、和田岬駅、和田棧橋駅の4駅で構成されていました。明治25年5月営業開始。鐘紡前駅は工場が空襲により壊滅したため、ほどなく廃止となりました。かつての敷地の一部にその関連施設として神戸百年記念病院があります。現在は兵庫駅と和田岬駅間を朝と夕方の時間帯のみ運行しています。



■兵庫臨港線

兵庫駅から南下する鉄道は兵庫臨港線と呼ばれました。兵庫駅-新川駅-神戸市場駅-兵庫港駅の4駅で、その歴史は明治44年から昭和59年初までの70年超。昭和30年代から40年代初期には兵庫港の倉庫からバナナ満載の貨車が一日に100両も運行されていました。新川駅は明和通に位置し、駅北側にある松村石油神戸工場や、駅東側にある日清製粉神戸工場へ専用線が続き、貨物輸送を行っていました。神戸市場駅は、中央市場本場南側に位置しその発展に貢献しました。

■川崎重工線

三つ目は現在の川崎重工の車輛部門の兵庫工場に引き込まれた線路です。これまでに新幹線や蒸気機関車など9万輛以上を生産してきたと言えます。新幹線車両の線路は標準軌(1435mm幅)で、狭軌(1067mm幅)である工場内まで引き込まれた線路を利用できないため、兵庫運河を利用して運搬しています。工場近くには、0系新幹線とこだま型特急の先頭車両が並んで展示されています。

兵庫区歴史さんぽ道シリーズ

近代兵庫 運河と鉄道を訪ねて



コース周辺鉄道路線案内

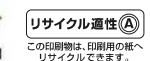


- 市営地下鉄他社線のりかえ駅
- 市営地下鉄西神・山手線 / 海岸線のりかえ駅、他社線のりかえ駅

● 本コースの最寄り駅 ●

- 市営地下鉄海岸線「中央市場前駅」(「三宮・花時計前駅」より約7分)・「和田岬駅」(「三宮・花時計前駅」より約9分)
- JR「兵庫駅」(「三ノ宮駅」より約7分)・「和田岬駅」(「兵庫駅」より約4分) ※運行時間に注意

発行/神戸市兵庫区役所
協力/ひょうご観光ボランティア
令和4年3月発行(令和6年3月改訂)



この散策マップは、古紙配合再生紙を使用しています。

近代兵庫

運河と鉄道を訪ねて

MAP



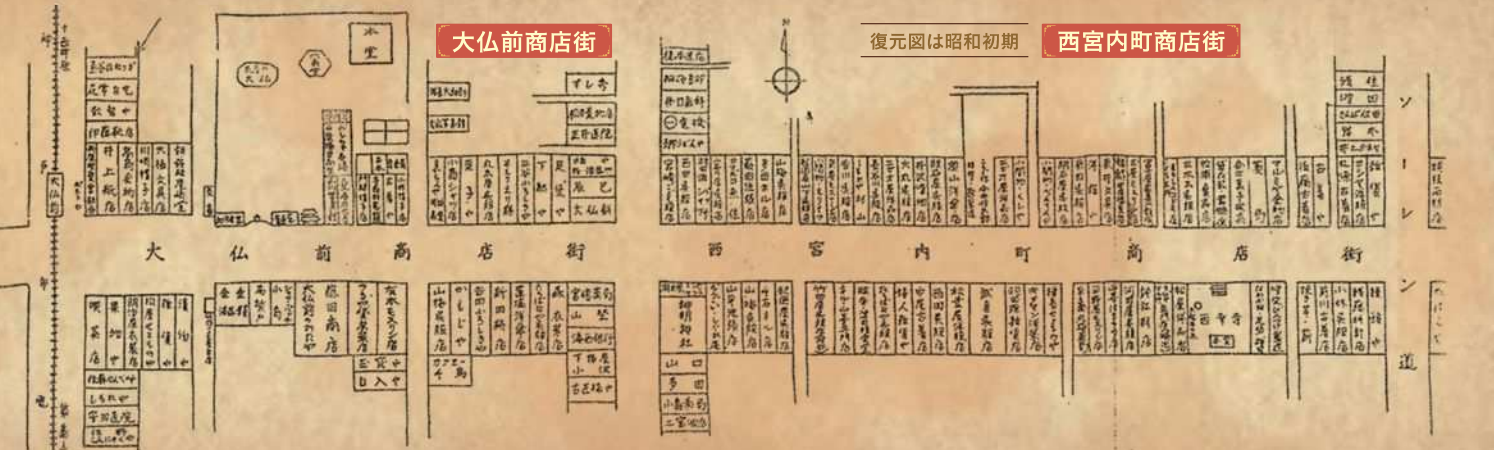
- 【凡例】
- 散歩道コース
 - 戦前の商店街
 - ♂ ♀ トイレ
 - 公園
 - 地下鉄
 - バス停



兵庫区裏話 戦前の商店街

戦前は日本一長い商店街だった？！

戦前、柳原蛭子神社と福海寺のあいだに柳原商店街、そこから西宮内商店街、大仏前商店街、清盛塚商店街、御崎新地商店街、御崎本通商店街、と和田岬まで商店街が続き、当時日本一長い商店街だったとも言われています。



コース付近のみどころ

兵庫運河での取り組み MAP ①

多様な生物が育つ豊かな運河へ
兵庫運河では、神戸港の港湾整備による
廃材でつくった干潟で海洋生物がどれだ
け育つかという実証実験や、水環境の改善
と環境体験学習を目的とした真珠貝プロ
ジェクトが地元団体の協力で行われてい
ます。



兵庫大仏／能福寺と芝居小屋 MAP ②

往時の繁栄の歴史を物語る場所
初代兵庫大仏は明治24(1891)年、能福寺
に建立され、日本三大仏のひとつといわ
れています。当時周辺は神戸の中心街で、
船乗りや外国人観光客にも親しまれま
した。境内には露店や芝居小屋も並び、
二代目渋谷天外はここで初舞台を踏んだ
と言われています。



旧岡方倶楽部 MAP ③

兵庫商人の社交場だった近代建築
江戸時代に海陸の要衝として繁栄を極め
た岡方惣会所の跡地に、兵庫商人の社
交場として昭和2(1927)年に建造され
たモダンな近代建築です。平成30(2018)
年に国の登録有形文化財に登録。今後、
市の歴史公文書館としての活用が予定
されています。



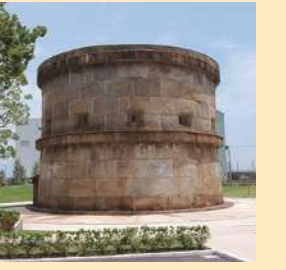
日本最古のビリケンさん MAP ④

有名なビリケンが兵庫区に2体も！
ビリケンがアメリカの彫刻家が神の姿を
夢想して制作したもので、その後、世
中で大流行しました。大正初期に元町
の洋食店が作らせたものがちに松尾稲荷
神社に奉納され、これが日本最古といわ
れています。鎮守稲荷神社には2番目に
古いビリケンさんが奉られています。



和田岬砲台 MAP ⑤

造船所内に残る幕末の史跡
三菱重工神戸造船所構内には江戸末期
に建設された「和田岬砲台」が現存して
います。
外国艦船の来航に伴い沿岸を防備する
必要に迫られ、徳川幕府により建設さ
れました。設計は勝海舟。国指定の史跡
で、毎月第2木曜日に内部見学が開催
されています(要事前申込)。



和田岬砲台 ⑤
(見学は要事前申込)